

常に勉強 現場主義



古河市議会議員 いずみ

さとう 泉 議会報告

平成 23 年春号

日頃より「さとう泉」の議会活動にご支援、ご協力いただきましてありがとうございます。

私がこれまでに3回の一般質問で政策提案させていただきました、市民活動支援センターが各地区（古河庁舎三階、コミュニティセンター総和、三和庁舎第三庁舎）に開設され、各種団体が利用しております。

また、私が1年半かけて政策提案してきました「三人乗り自転車貸出事業」も、県内初となる市独自の子育て支援策として実施されました。

そして要望しておりました古河第三中学校の自転車通学についても実施されました。

政治とは結果であり決断力であると思います。
どれだけの結果が残せたのか、その結果をつくるための決断力と説得力が大切と考えております。

『常に勉強』することをこころがけ、実際に足を運び、要望に耳を傾ける『現場主義』で、今後ともしっかりと政策提案をしてまいりますので、ご理解、ご協力を宜しくお願い致します。



プロフィール

弱者優先の政治を！

お年寄り、子どもたち、障がいを持った人たち



- ・昭和 48 年 8 月 20 日生まれ（現在 37 才）
- ・古河第三小学校、古河第三中学校
総和高等学校、東京科学電子工業専門学校
白鷗大学法学部法律学科卒業
- ・大学卒業後、研究生として福岡政行研究室で政治学を学ぶ
- ・研究生修了後も政治評論家、福岡政行先生に師事
現在（平成 23 年）も勉強中
- ・平成 15 年 4 月より古河市議会議員
29 才の時に初当選 現在 2 期目
- ・文教常任委員長、厚生常任委員長 歴任

【現在】

- ・第 3 地区（旭、下一、下二、下三、住吉町） 相談役
- ・下三自治会 相談役
- ・古河市子ども会育成連合会 古河地区会 体育部長
- ・株式会社 東和 取締役

「古河公方まつり」の開催について

? 質 問 (さとう泉)

市長の施政方針の中にもありましたが、合併 5 周年となる来年度は、古河公方の足利成氏が 1455 年に鎌倉から古河に座を移して以来 555 年を迎える記念の年であります。

古河市は古河公方時代は関東の中心地でした。

足利成氏は古河公方になる前には信濃国の大井持光に保護されていました。私事ですがこの信濃の国の元小諸城主の大井持光が私の先祖でございます。信濃国から一緒に古河の地に来たとのことでした。

合併 5 周年の記念イベントとして「古河公方まつり」の開催を提案します。

古河は歴史のまちということ子ども達にも学んでもらえるチャンスだと思います。

市民を募って、武者に仮装して公方行列を行うというものです。

もちろん市長や副市長、正副議長、さらには古河大使の皆様にも市民の方に混じって、一緒に仮装して行進して頂ければ、このイベントが一層盛り上がると思います。

それに伴い、公園内で、火縄銃演武も開催し、華を添えて頂きたいと思います。

! 答 弁 (市長)

足利成氏が古河に座を移してから 555 年を迎える年が、たまたま古河市の合併 5 周年ということで、環境は整っている。検討させていただきたい。

★ 結 果

手づくり鎧兜教室が開催され、鎧兜が完成いたしました。

平成 23 年 3 月 20 日 (日) 古河公方行列が開催されます。

当日は火縄銃演武も行なわれる予定です。

▶ 質問趣旨

観光誘客を目的に質問いたしました。古河市をいかにして観光地にするかという視点にたったの質問です。

古河の歴史遺産を 100%活かしたいです。



紙でつくった鎧兜

お菓子 (スイーツ) のまち古河について

? 質 問 (さとう泉)

古河市には有名なお菓子会社の工場や和菓子店、洋菓子店、パン屋さんが多く点在しています。大手のお菓子メーカーの工場や、いつもオリジナリティ溢れる和菓子が並んでいる和菓子屋さん、見ただけで幸せな気分にならせてくれる洋菓子屋さんなど、市内の至るところで見かけます。そういった事業主の方々にも呼びかけ、「お菓子のまち古河」という一面を訪れた方々に広く PR できないものではないのでしょうか。

佐野といったらラーメン、宇都宮といったら餃子といったように、お菓子和古河市を結びつけたまちづくりを提案いたします。「お休み処」や「古河ブランド販売所」でも、そこで食べることができたり、お土産に買えたりできるなど、積極的にお菓子のまち古河を、ぜひ目玉にしてアピールして頂きたいと思ひます。

参加頂ける工場、店舗には、自社製品の販売や可能であればお菓子作りの実演、あるいは、簡単にできるお菓子の調理教室や各店、工場の自慢のお菓子を持ち寄つての品評会の開催など、各社の独自の宣伝方法を思考頂き、訪れる方々をもてなして頂きたいと思ひます。

古河市の花であるハナ桃をモチーフにするとか、地元の食材を必ず使うなどのルールを設けて、各工場、店舗に創作お菓子を開発して頂き、お菓子グランプリを開催しお菓子の見た目のあざやかさ、味等競ってもらふのも盛り上がると思ひます。

ちなみに古河地区、総和地区、三和地区には菓子類製造に携わつてゐるお店の数は、古河商工会議所、古河商工会、古河市工業会会員事業所に登録してゐるだけでも約50件あります。登録してゐないところもあわせると80件近いお店があると思ひられます。そこで、菓子類に携わつてゐるお店を掲載したマップを作り、来訪者に古河のお菓子のはしごをして頂きたいと思ひます。

🗨️ 答 弁 (市長)

市内にはお菓子に関係してゐる会社が実に43社ある。こういうものを何か一つに組み合わせたら本当におもしろい物が出来ると思ふので、検討させていただきたい。

★ 結 果

合併5周年を記念して、古河オリジナルスイーツ【ド・マンナカスイーツ】を開発する事となり、料理研究家監修のもと、関東ド・マンナカ宣言のまち“古河”を元気にする新たな名産作りに力を入れることになりました。

ド・マンナカ祭りにてド・マンナカスイーツ発表会が開催され、最優秀賞を受賞した「三尺玉羊羹」をはじめ、都かぼちゃやバラを使ったスイーツも登場。当日は約3,000人の観客が集まり、タレントのギャル曾根さんが会場を盛り上げ大盛況でした。都かぼちゃでまちおこし！！

▶ 質問趣旨

古河市にはおいしいスイーツがたくさんあるということをおアピールし、観光客をたくさん古河に来てもらうことを目的に質問しました。お菓子(スイーツ)でまちおこし！！



古河駅周辺地区の役割と再建構想について

？ 質 問 (さとう 泉)

まちなか再生市民広場を古河のあらゆる情報の発信基地、つまり観光・産業分野のランドマーク的な施設としたい。

古河駅に降り立った観光客が、そこで自分の知りたい観光、グルメ、物産、あるいは古河の歴史文化といった情報を必要なだけ収集でき、観光客のニーズに合わせたコース、スケジュールなどを提案するような役割を持たせたい。まちなか再生市民広場の建替えも視野に入れた中で、並行して検討すべき。

古河駅西口のロータリー内に案内板の設置、それと併せて観光客が目的地までの順路を確認しながら行けるように市内の各ポイントに道しるべの標識設置を提案いたします。

また昨今、週末ともなると、リュックを背負ったグループが市内を散策している姿をよく目にします。しかし、その歩いている場所は、路側帯や側溝の上であったり、決して安全性が確保されておらず、インフラ整備の必要性を感じました。初めて古河を訪れた方が、期待に胸を高鳴らせて、目的地に向かって散策しだしたら脇を車がブンブン通過する道路だとしたらどんな気持ちになるでしょう。楽しい気分です市内を回遊できるのでしょうか。

！ 答 弁 (市長)

これまでの施策の効果を踏まえて、「まちなか再生市民広場」や「雪華」などの活性化方策についても再検討することが必要であると考えております。また、今後 6 年間における他の施策とのバランスをとることも必要でありますので、まずは状況等を整理した上で今後のデザインを描いていければと考えております。

！ 答 弁 (部長)

古河駅西口を起点として、主に文化施設や神社・寺等を徒歩で 2～4 時間で観光できる「らくらく・ゆったり・よくばり」の 3 コースを「古河てくてく観光マップ」で定めております。また、観光施設が古河駅西口に比較的多く存在する為、日光街道沿いの主な辻に、市内回遊者の目印となるような標識、並びに西口広場等に案内板を設置し、それぞれが連携できるような方策について検討してまいります。

▶ 質問趣旨

- ・まちなか再生市民広場を建替えも視野に入れ、観光・産業のランドマーク的な施設とすることで観光客をよびこむ環境づくり。
- ・古河駅と徒歩圏内の観光施設を結ぶコースとともに徒歩圏外にある観光施設を結ぶコースの整備も必要。



まちなか再生広場



市民活動支援センター設置

私がこれまでに3回の一般質問で政策提案させていただきました市民活動支援センターが各地区（古河庁舎三階、コミュニティセンター総和、三和庁舎第三庁舎）に開設され、各種団体が利用しております。

センターでの利用内容は、「パソコン」や「印刷機」を使って、地域のイベントや会議などの資料づくりができます。また、資料づくり等を打合せする場所として「談話室」や情報の発信として「掲示板」が設置されております。



三人乗り自転車貸出事業

私が1年半かけて政策提案してきました「三人乗り自転車貸出事業」が、県内初となる市独自の子育て支援策として実施されました。



3人乗り自転車レンタル「快走」

古河市が県内で初めて実施した、幼児2人が同乗出来る「3人乗り自転車」の貸し出し事業が「快走中」だ。9月に50台で始めたが、希望する市民はまだ増加中。市は11月からさらに25台を増やし、市民の要望に応じている。

学齢期前の子が2人以上いる市内の保護者を対象に、同市は9月から3人乗り自転車の貸し出しを始めた。スタート当初から評判はよく、10月中旬には全車貸し出し状態。料金は電動式で月800円、ギア式同500円。電動式の定価が15万円、ギア式が8万円と高価なことや、利用期間が数年間に限られることが人気の背景らしい。

寒い冬に入れば貸し出しは減る、という予想に反し、申し込みは今も続いている。問い合わせは市経済対策推進室(0280・92・3111)。

古河市、人気に応え25台増車

朝日新聞 平成21年11月10日



白鷗大学とスクールサポート事業の協定を結びました！

古河市教委と白鷗大教育で協力協定締結
古河市教育委員会は28日、栃木県小山市の白鷗大教育学部との間で、大学生ボランティアが小中学校の授業を補助する事業などを推進する協力協定を結んだ。
同市教委は今年度、近隣の大学生が授業の補助や部活動の支援を行うスクールサポーター事業を始め、現在、12人が小中学校計12校で、算数や特別支援学級の授業などで教師を手助けしている。
協定によると、現在、白鷗大から4人が参加しているスクールサポーターについて、大学が学生たちに積極的に参加するように呼びかける。
一方、古河市教委は、全国から入学している学生らが近くの同市で教育実習ができるように便宜を図る。
市は「白鷗大は、教育を志す意欲の高い大学生が多い。市内の全小中学校32校にそれぞれサポーターを置きたい」と期待している。

読売新聞 平成21年10月29日

平成22年度は、白鷗大学生21人の学生サポーターが活躍中です。

『活動状況』

- ・教科のティーム・ティーチング
- ・休み時間のふれあい
- ・特別支援学級での支援



第一回第三地区盆踊り大会を開催！

住民自治は『元気な地域コミュニティづくり』が大切です。地元第三地区初の盆踊り大会を企画させていただきました。みんなの協力で大成功でした。子供からお年寄りまで楽しいひと時を過ごせました。



古河第三中学校の自転車通学実施！

要望しておりました自転車通学が実施されました。古河三中卒業生として、とても嬉しいです。



(自転車小屋も設置されました)



少子化対策の一環として、ボランティア活動中です。

愛直便（愛の直送便）という名前で、2～3ヶ月に1度のペースでお見合いパーティを開催し、古河市近郊にお住まいの独身男女のステキな出会いをお手伝いしています。

これまでに16回のお見合いパーティを開催し、合計611名(女性284、男性327名)が参加、108組のカップルが誕生し、既に5組が結婚されました。

そして、今年7月には6組目の夫婦が誕生します。

また、ご結婚された3組のカップルにお子様が生まれています。



- ♡ 2008年 8月17日・・・軽井沢にて挙式
- ♡ 2009年 2月28日・・・カナルハウスにて挙式（写真）
- ♡ 2009年 7月・・・入籍
- ♡ 2009年 10月24日・・・カナルハウスにて挙式
- ♡ 2010年 10月10日・・・アンフランベルジュにて挙式

「出会うキッカケがなかったのに、
参加できて大変良かった。」
との声を数多くいただいています。

マリッジサポーターとして委嘱を受けています

マリッジサポーター（結婚支援相談員）とは、地域における世話役として、若者の出会いの相談や仲介などの活動をボランティアで行なう人々のことです。

少子化の大きな原因である未婚化、晩婚化の流れを変えるため、いばらき出会いサポートセンターを中心として、結婚相談やパートナー紹介、県民自らが主体となった結婚支援活動の展開、出会いをサポートする人材の育成などを総合的に推進し、全県的な結婚サポート体制づくりを進めるお手伝いをしていきます。



お見合いパーティの様子

マリッジサポーターの活動

- ・地域における若者の出会いの相談・仲介
- ・若者対象の交流イベントや出会いの場づくりなどの自主的な企画、実施
- ・いばらき出会いサポートセンターに登録していただける独身男女の発掘、紹介
- ・いばらき出会いサポートセンターのPR
- ・結婚して家庭を築くことの大切さ・素晴らしさについての意識啓発活動

福岡政行 先生に学ぶ

政治評論家で白鷗大学教授、立命館大学客員教授でもあります福岡政行先生（TV タックル等テレビ番組でおなじみの）に師事し政治学の勉強を現在も続けております。（師事 12 年目）

これからは地方の時代ですので、議員の高度な知識が必要です。元気な古河市にするためにも「常に勉強」「現場主義」でがんばります。



北川正恭 先生に学ぶ

私は、ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟会員として元三重県知事、早稲田大学大学院公共経営研究科 北川正恭教授に学んでおります。

茨城マニフェスト・スクールでも勉強中です。しっかりと政策提案できるようにがんばります。



さとう泉事務所

古河市東本町 3-7-9

電話：0280-31-2863

ファクシミリ：0280-32-2267

Eメール：sato_izumi_123@yahoo.co.jp

ブログ：http://blogs.yahoo.co.jp/sato_izumi_123



さとう泉



討議資料